

日伯経済関係の変遷と今後の 展望

1. 日伯経済関係の変遷

- 1895年 日伯修好条約締結、外交経済関係開始
- 1908年 最初の日本移民を乗せた笠戸丸サントス入港
- 第二次大戦中、日伯関係中断
- 1952年 平和条約により日伯関係再開

(1) 1950年代ー

日本企業ブラジル進出の第一波

- 1956年 クビチェック大統領『メタス計画』『50年を5年で』、工業化推進、外資受け入れ
- 日本企業銀行、商社、紡績等々トヨタも含め数十社進出
- ウジミナス製鉄ー日伯経済協力ナショナル・プロジェクト

(2) 1960年代後半から1970年代前半 - 日本企業進出の第二波

- 軍事政権下『ブラジル経済の奇跡』
- 約500社の日本企業進出
- ナショナル・プロジェクトも増加ー紙パルプ(セニブラ)、セラード農業開発(カンポ)、アマゾン・アルミ(アルブラス、アルノルチ)、カラジャス鉄鉱石開発等
- 1973年及び1979年の石油危機⇒インフレ、国際収支悪化、財政赤字増

(3) 1980年代及び1990年代一日伯 経済関係停滞『失われた20年』

- 1982年ラテンアメリカ債務危機
- 1985年民政移管、大統領交代毎に経済プラン発令、いずれも失敗、インフレ昂進、国際収支悪化
- 200社に及ぶ日本企業の撤退、閉鎖、身売
- 1994年リアル・プランによりインフレ収束、財政構造改革、民営化、外資差別撤廃、経済効率化
- 1990年代は日本のバブル崩壊による長期不況
- 欧米企業進出積極化、日本企業立ち遅れ

(4) 20世紀末から21世紀初頭—日本企業進出第三波となるか？

- 日本企業にも多少の動意
- トヨタ、ホンダ乗用車生産開始。王子製紙、伊藤忠グループのセニブラ買収。三井のリオドセへの資本参加。川崎重工の航空機生産への参加。味の素の投資拡大等々。
- 目的、戦略が明確化した日本企業の進出

(5) 10年間横這いの日伯貿易

- ブラジルの対日輸出1994年26億ドル、2004年27億ドルと横這い。ブラジル輸出総額435億ドルから965億ドルと2倍以上。米国向90億ドルから203億ドルと2倍以上。EU向122億ドルから241億ドルと略2倍。中国向8億ドルから54億ドルと略7倍。
- 対欧米向輸出は資本技術集約型製品増加。対日輸出品は依然資源及び資源加工型。
- 日本からの輸入も停滞。

2 . 日伯経済の新たな関係構築に向けて

(1) 両国首脳交換訪問の実現

- 2004年9月小泉総理訪伯
- 2005年5月ルーラ大統領訪日

(2) ブラジルのビジネス環境調査

- CNI及び日本経団連の依頼を受け、本年3月から5月間ブラジル日本商工会議所加盟の約150社に実施
- 進出日本企業の抱える問題点の具体例、今後の有力投資分野、FTAAやメルコスルーEU間FTA実現の場合予想される被害等調査
- 税制、行政、知的所有権、労働、治安、資本市場、為替等ビジネス環境の後進性や国際化の遅れ。港湾未整備、複雑な通関制度、内陸インフラ未整備などが浮き彫り
- にもかかわらず、日本企業の対伯投資意欲は潜在的に継続、機械、自動車、化学、食品、運輸サービス等の業種

(3) EPA早期締結の必要性

- 投資、経済協力、貿易などの促進、即ち両国経済活性化の有力な手段
- ブラジルの投資環境を改善、国際競争力を向上させ、ブラジルへの直接投資の増加に役立つ
- 日本経団連及びCNIは昨年日伯両国政府にEPA早期交渉開始を提言
- 昨年小泉総理来伯時に当会議所より要望
- 政府の交渉順位は2.5世代先送り
- 本年ルーラ大統領訪日時の日伯経済合同委員会でEPA研究継続のための委員会設置で同意
- 日本より投資機会を探り、障害要因克服をCNIと議論するためのミッション派遣を決定

主として日本にとってのEPA早期締結の必要性

GDP押し上げ効果

メキシコに次ぎ12位で、シンガポール18位やチリー17位より上位

BRICsの一員第三世界のリーダー

- ブラジル、ロシア、インド、中国
- ブラジルのGDP6000億ドル、ASEAN10カ国に匹敵する市場、アジアより所得水準高い
- 資源大国
- エマージング・カントリー中の高い工業水準
- WTOや国連で第三世界リーダーとして活躍

数字だけではない日伯関係

- 日伯間の歴史的友好関係
- 25万人の日本移民渡伯、150万人と海外最大の日系社会
- 約30万人の日系ブラジル人の出稼ぎ

(3) 他国、他地域の動向

戦略的パートナー、中国とブラジル

- 需要、供給両面で大きい中国の存在
- 要人の往来
- 大きい投資と広範な経済協力の約束
- ラ米のリーダー、ブラジルと東アジアのリーダー中国という構図で日本は良いのか

韓国の素早い対応

昨年11月大統領訪伯、訪亜によりメルコスルとのFTA締結の研究開始で同意

EUと米国

EU - メルコスル間のFTA及び米国とのFTAA
交渉は目下中断、しかし両地域に対する経
済依存度高い

(4) 日本の選択